

## 終わりに・謝辞

本活動は日本予防理学療法学会が募った有志による活動として、2020年4月下旬より開始したプロジェクトである。本班は、「社会的制約改善班」として活動してきた。約1カ月間、班員の方々とともにオンライン会議などを通して、試行錯誤しながらこのように第一報として報告することができたことを班長として誇りに思っている。COVID-19蔓延によって生じた社会的制約を、本班では①社会参加・閉じこもり、②社会的孤立、③ソーシャル・キャピタルの3つの視点からまとめることを試み、ワーキンググループ（WG）を独自に立ち上げた。5月4日に正式キックオフした本班（実際には5月3日にWGリーダーミーティングを実施していた）では、5月中旬まで既出のガイドラインや声明を班員一丸となって情報収集してきた。そして、これらのガイドラインや声明、その他独自に収集した文献などをもとに第一報の推敲を重ねてきた。WGのリーダーとして活動いただいた、森下氏・大片氏・野口氏の3名には、班長の力が及ばないところを多大にサポートしていただいた。この場を借りて御礼申し上げたい。さらに、日々の業務もあるなか、情報収集や報告書の執筆にご尽力いただいた班員の方々にも謝意を申し上げたい。また、COVID-19の流行状況が刻一刻と変わる中、残念ながら活動に最後まで関わることはできなかった班員の方々がいらっしやう。しかしながら、全国から同じ志を持つ仲間がいることは班活動を継続するうえで大きな心の支えとなった。最後に、このような活動の場をいただいた日本理学療法士協会および日本予防理学療法学会に、班を代表して感謝申し上げます。本

COVID-19 社会的制約班からの提言～第1報～ 【終わりに・謝辞】

班の第1報が、一人でも多くの理学療法士協会の会員の方々に読んでいただけることを切に願っている。

2020年5月26日

社会的制約改善班班長

池田登顕